

「自分のスタイルを見つければ、男女ともに道は拓ける」



インタビュー②

つくば東事業所 東研究業務推進室
室長（つくばセンター）

うらい さとこ
浦井 聡子

室長として業務に携わる

初めて室長のポストに就任してからおよそ2年半、現在はつくば東事業所の安全管理や庁舎管理、スペース管理、資産管理、研究ユニットの支援業務、調達などの会計業務、庶務手続き全般を行う東研究業務推進室を担当しています。室長という立場では、事業所全般の運営、安全管理などが円滑に進められるためのマネジメントのほか、本

部組織との連携を図り、研究業務推進室の取りまとめを行っています。

女性が室長になるというケースは、あまり多くはなかったと思います。普段は男女差を意識しない職場ですが、初めて室長として就任したころはプレッシャーも大きく、問題もいろいろありてんやわんやでした。ちょうど産総研全体の部署にかかわる規程の見直しが実施されることになり、さまざまな部署との調整など大変な日々もありました。その時は、「もうダメかも」と思わず実家の母に泣きついて電話をしたこともありました。それでも室員に支えられ、多くの方からアドバイスを受けることで何とか改正までこぎつけることができました。

今までのキャリアの中で、仕事に対する意識が変わったと感じたきっかけといえば、2009年から監査室（東京本部）へ移動となり、会計検査を通して会計検査院や経済産業省の方と、初めて直接かかわる業務を担当したことでしょうか。当時は自分の勉強不足・経験不足を痛感しましたが、おかげで産総研という組織を外から客観的に見る事ができたと思います。組織にとって何が重要かなどを学ぶことができました。

産後の復職率が物語る職場環境

国家公務員という響きに惹かれてなんとなく働き始めてしまった私ですが、ここ最近で産総研に入ってくる方は立場や役割をしっかりと意識している人が多いと思います。私が入ったころは今のようない育児休暇制度などありませんでしたが、今は母親となる女性にとってもよい制度が整備されてきて、産後も復職する人がほとんどだと思います。育児がある程度落ち着けば、またすぐに活躍できる職場であり、前向きな姿勢でしっかり仕事をしていけば、男女平等に道が拓ける環境だと考えます。

とはいえ、子育てと仕事の両立はそう簡単なものではありません。私の場合、近隣の保育園に子どもを入れることができず、一時期は義理の母や実家に手伝ってもらったり、職場の近くに住んでいたので子どもの面倒を見るため、昼休みに家に戻ったりしていました。下の娘が生まれた時は、二つの保育園を回り、おまけに夫は東京勤務でしたので、ただ毎日、目の前にあることをやらなくちゃという思いでいっぱいでした。そういった自分の経験を通じて言えるのは、産総研にはいろいろな知見をもった人が数多くいますから、不安なことはどんどん相談して、自分のスタイルを見つけていくのが一番の働き方ということです。そして、女性のキャリアアップのためにも仕事や家庭など、いろいろな話ができる女性同士のネットワークを作ればと思っています。